

輸入粗飼料の情勢

全 酪 連
購 買 生 産 指 導 部
購 買 推 進 課

北米コンテナ船情勢

北米西海岸南部（PSW）のロサンゼルス・ロングビーチ港では現在も日本向けの直行便は安定的なスケジュールで運航されています。先月2月にロサンゼルス・ロングビーチ港より発表された、23年1月の両港におけるコンテナ取扱数量は総計でおよそ130万TEUとなっており、昨年22年1月の167万TEUに比べ23%程度減少しています。世界的な景気の後退や、西海岸の港湾労使交渉による海運の乱れを危惧した荷主が東海岸に貨物をシフトしている影響が出ています。

北米西海岸北部（PNW）航路のシアトル・タコマ・ポートランド港では、大雪等による悪天候や空コンテナ不足により船積みスケジュールに乱れが生じています。

他方で昨年から続いている西海岸の港湾労使交渉は進展があり、2月23日に使用者団体であるPMAと港湾労働者団体であるILWUの間で共同声明が発表されました。交渉内容の詳細については言及されませんでした。両者の間で継続協議されていることに加え、近いうちに合意できるだろうと表明しており、交渉に大きな前進があったことが伺えます。

ビートパルプ

【米国】

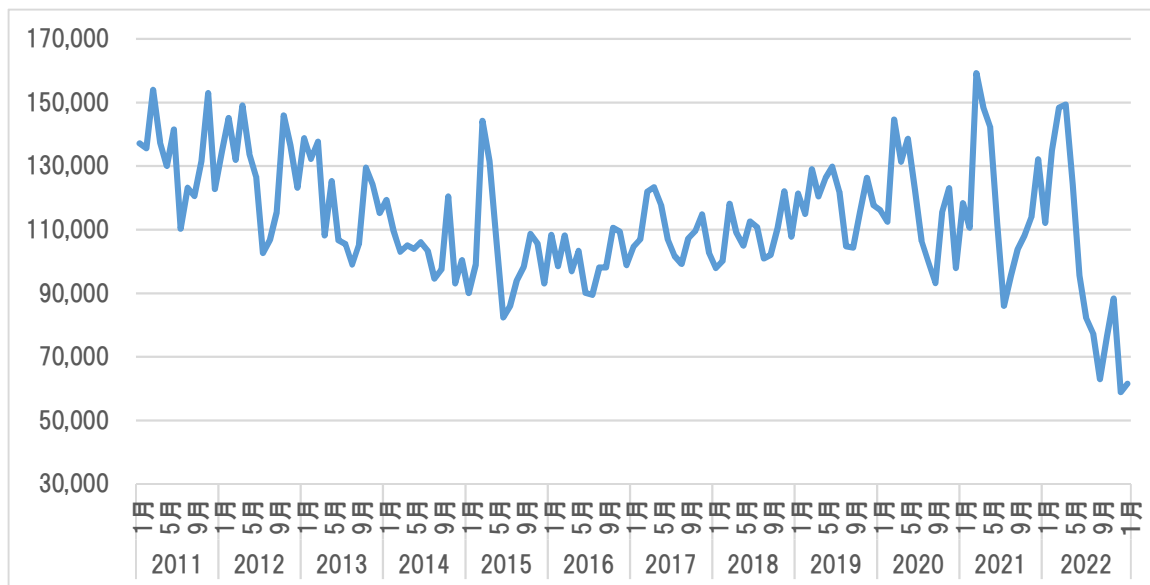
産地では工場から積出港間の輸送を担う鉄道会社において、慢性的な人員不足と降雪を伴う悪天候により、過去にない大幅な遅延が発生しています。通常、積出港まで、直接鉄道で輸送しますが、現在は出荷に間に合わせるために、近郊の都市まで鉄道輸送で運搬後、トラック輸送に切り替えて運搬をしています。運送手段の変更に伴う多大なコストアップに苦しむ一方、この鉄道輸送の混乱と停滞は、改善の気配を見せておらず、今後の安定供給に大きな懸念を生じさせています。

また先月から産地では例年より温暖な日が続いており、屋外で保管しているビート原料にダメージが発生しているため生産量の減少が懸念されています。

米国産牧草の日本への輸出量について

米国農務省（USDA）から3月8日に発表となった輸出統計によると、23年1月に米国から日本向け牧草の輸出量は総計61,571トンとなっており、海運の乱れがあった昨年1月の輸出量112,131トンに比べ50,560トン少ない数量となっています。従前では月間平均120,000トン程度、米国から日本に向けて牧草が輸出されていましたが、円安の影響や歴史的な高値となった22年産の産地相場を背景に、新

穀供給が開始した昨年6月から今年1月までの平均輸出量は75,419トンとなっており輸出量は大幅に減少しています。



(2011年から2023年1月までの米国から日本に向けた牧草の輸出量推移
単位：トン 出典：USDA)

アルファルファ

ワシントン州

歴史的な高値から産地の輸出業者におけるアルファルファの荷動きは、引き続き低調となっており、特に日本、韓国からの引き合いは少ない状況となっています。22年産は収穫期の降雨の影響で発生量の少なかった上級品の産地在庫は限定的なものの、低級品については未成約の在庫が散見されます。寒波の影響で米国内酪農家、肥育農家からの乾草への引き合いが強まると思われた一方で、近隣生産者はすでに十分量の在庫を確保しているため、低級品の国内の相場はやや軟化傾向にあります。

カルフォルニア州

南部インペリアルバレーでは2月より23年産1番刈の収穫が開始されており、現在、収穫作業は折り返しを迎えています。直近では最高気温は25℃前後の日が続いており、輸出向けにしっかりと乾燥した高成分品も生産されています。産地相場は22年産のピーク時に比べ軟化を見せていますが、それでも高値の水準となっており、今後も産地相場に注視する必要があります。

米国産チモシー

22年産は作況も良く、旱魃が改善したアイダホでも例年並みに生産ができたことから、供給は十分な状況です。その半面で歴史的な高値となったことから日本、韓国からの需要は減少しており、加えて旱魃の影響で牧草が十分に確保できなかった昨年と異なり、今年は内需においても十分な牧草の在庫があるため、各輸出業者で値直しを行い、荷動きの活性化を促しています。

スーダングラス

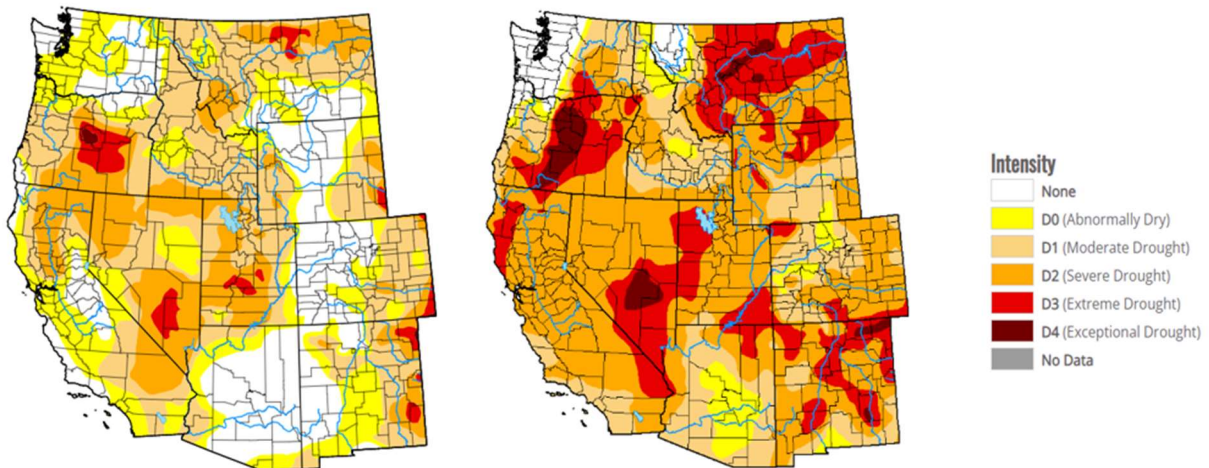
22年産は各輸出業者21年産の繰越し在庫が少なかったことや、産地における早魃の影響で水不足の懸念があったことから、輸出業者間で旺盛に買付が行なわれたため産地価格が高騰しました。

直近ではスーダンの種子産地であるアリゾナ州ユマにおいて、早魃により作付面積が大幅に減少し種子の生産量にも影響が出ています。これにより種子価格が上昇し、23年産はスーダンの作付面積減少が懸念されていますが、多くの輸出業者で22年産の繰越し在庫を例年以上に抱えている為、23年産の供給力を心配する声は聞かれていません。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

22年産はアルファルファ高騰と早魃を背景として、米国内の酪農家からクレイングラスに対して旺盛な需要が発生し、相場上昇につながりました。米国当局が3月2日に発表した米国西海岸における早魃状況は昨年同時期と比べて改善しています。

一方で産地インペリアルバレー灌漑当局から2月15日に発表となったクレイングラスの作付面積は22,014エーカー（昨年同時期19,323エーカー）で前年同時期比114%となっています。今後も天候には注視が必要となりますが、早魃状況が改善し、昨年よりも放牧草が順調に生育していることに加え、22年産からの繰越し在庫が例年以上に発生する見込みであることから、23年産は落ち着いた相場になることが期待されています。



（西海岸の早魃状況の比較。赤色が濃くなるほど、早魃状況が厳しい。）

左：2023年3月2日 右：2022年3月1日

出典：National Drought Mitigation Center

バミューダ

22年産は種子が多く生産されたため、バミューダヘイの生産量が例年よりも減少しましたが、輸出需要が減少したため、21年産に比べ、22年産の繰越し在庫は多くなる見込みです。バミューダストローに関しても輸出需要の減退はあったものの、国内の酪農家及び肥育農家向けに対して相対的に安価な繊維源として現在も堅調な荷動きが見られています。

2月15日時点の作付面積は64,816エーカー（昨年同時期61,455エーカー）と前年同時期比105%となっています。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

22年産アニュアル種のライグラスストローを中心に、主要需要国である、日本、韓国で自給粗飼料である稲わらの作況が良好であったことから、需要が減少しており、産地での荷動きは鈍化しています。

カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州では、2月末にも大雪に見舞われ、国内輸送は混乱しています。中国の経済成長が鈍化を見せているなか、船社も本船のスケジュールを間引き船腹を調整しているため、空コンテナ不足に加え、船腹予約が取り難い状況が続いています。この影響で工場の生産も大幅に遅れ、不安定なデリバリーが続いています。

豪州産オーツハイ

22年産オーツハイは東豪州、南豪州において収穫期に発生した「ラニーニャ現象」と「負のインド洋ダイポールモード」の影響で洪水を伴う断続的な降雨に見舞われたため、これらの地域では低級品中心の生産となりました。特に東豪州では重度の雨当たりから、輸出に適さない品質が多く発生しています。一方、西豪州の作況は良好で、中級品以上中心の発生となったため、現在日本向けは西豪州中心の出荷となっています。

産地相場については引き続き安定的なもの、中国向けの今後の動きには注視が必要です。現在中国向けにオーツハイの輸出許可ライセンスを取得している工場は東豪州の3工場、他の工場ではライセンスが失効しており、更新されない状況が続いています。コロナウィルス感染拡大以降、両国の間で緊張状態が続き、綿花や石炭をはじめとする、オーツハイ以外の品目でも豪州からの輸出が滞っていましたが、今年2月より石炭の輸出が再開し、直近では綿花も同様に出荷が再開され、豪中間の貿易正常化の動きがあります。今後オーツハイも棚上げになっていた各工場の輸出向けライセンスが更新される可能性があります。中国向けの出荷が活性化すると、産地相場への影響も懸念されているため、今後の両国間の動きには注視が必要です。

以上